

パターン	対応ルール	対象薬剤例
①ATCcodeが付与されていない場合	ATCレベル4まで薬効分類に従い付与。 レベル5以降は順番にXA、XBと付番する	J01CAXA シクラシリン(O) J01CAXB レナンピシリン(O) J01GBXA アストロマイシン(P) J01GBXB ミクロマイシン(P) J04AAXA アルミノパラアミノサリチル酸カルシウム水和物 (O) J05AEXB バニプレビル (O) P01AXXA スピラマイシン (O)
②DDDが付与されていない場合	JDDDとし、原則として、日本の添付文書最大用量とする体重あたりの投与量が設定されている場合は70kgで計算する。	A01AB18 クロトリマゾール (troche) JDDD : 0.05g D06AX09 ムピロシリン (nasal ointment) JDDD : 0.06g D06BB10 イミキモド (cream) JDDD : 0.0125g J01CAXX シクラシリン(O) JDDD : 2g J01CAXX レナンピシリン(O) JDDD : 1g J01FA03 ミデカマイシン(O) JDDD : 0.6g J01GBXA アストロマイシン(P) JDDD : 0.4g J01GBXB ミクロマイシン(P) JDDD : 0.24g J02AA01 リボソーマルアルムホテリシンB (P) JDDD : 0.15g (※体重60kgで設定) J04AAXA アルミノパラアミノサリチル酸カルシウム水和物 (O) JDDD : 15g J04ABXA エンピオマイシン (P) JDDD : 1g J05AEXB バニプレビル (O) JDDD : 0.6g J05AHXA ラニナミビル(inhal) JDDD : 0.04g P03AC03 フェノトリン (lotion) JDDD : 1.5g S01AA28 バンコマイシン (eye ointment) JDDD : 0.05g
③抗菌薬が合剤且つWHOで定めるDDDの単位が“UD”を使用していた場合	“UD”でDDDを記載。備考欄にUDである旨の記載	J01CR50 アンピシリン (125mg) /クロキサシリン(125mg) (O) DDD : 8UD J01CR50 アンピシリン水和物・クロキサシリンナトリウム水和物 (P) DDD : 2UD J01EE01 スルファメトキサゾール・トリメトプリム (O・P) DDD : 4UD P01BB51 アトバコン・プログアニル塩酸塩 (O)
④抗ウイルス薬が合剤且つWHOで定めるDDDの単位が“UD”を使用していた場合	“UD”でDDDを記載。備考欄にUDである旨の記載	J05AP51 レジバスビル アセトン付加物・ソホスビル (O) DDD : 1UD J05AP53 オムビタスビル水和物・パロタプレビル水和物・リトナビル (O) DDD : 2UD J05AR01 ジドブジン・ラミブジン (O) DDD : 2UD J05AR09 エルビテグラビル・コビスタット・エムトリシタピン・テノホビル・ジシプロキシルフマル酸塩 (O) DDD:1UD
⑤規格が〇〇万単位の場合	DDDをMUとして処理	A07AA05 ポリミキシンB (O) WHO ATC/DDD=3MU(O) 。300万単位のカバを3(MU) とし、DDDは3とする。50万単位は0.5(MU) 。 A07AA10 コリスチン(O) WHO ATC/DDD=9MU(O) 。規格を3 (MU) として、DDDは9(MU) とする。 J01CE01 ベンジルペニシリン (P) WHO ATC/DDD=3.6g (P) 。100万単位=0.6gなので、6MU=3.6g。規格を1 (MU) として、DDDは6(MU) とする。 J01FA02 スピラマイシン (O) WHO ATC/DDD=3g (O)。1gを300 (MU) とし、DDDは9 (MU) とする。 J01XB01 コリスチン (P) WHO ATC/DDD=9MU (P)。規格を3 (MU) として、DDDは9(MU) とする。
⑥酵素阻害剤の入った合剤の場合	WHOでは抗菌作用成分のDDDに従うとされているが、ABC-Jでは、本数データを扱うため、配合比を加えJDDDと設定して対処。	J01CR01 アンピシリン・スルバクタム (P) アンピシリン+酵素阻害剤のWHO ATC/DDD=6g。配合比ABPC:SBT=2 : 1のため、DDDを9と設定。 J01CR02 アモキシシリン・クラブラン酸 (O) クラバモックス : 1.01g製剤中にAMPC 0.6g/CVA 0.0429g含有。DDDはAMPCとして設定 オーグメンチン : カバはCVAも含める。DDDはAMPCとして1.5だが、合剤 (2:1) のため、2.25と設定 J01CR05 タソバクタム・ピペラシリン (P) ソシン : TAZ/PIPCは (DDD=14) として算出するが、配合比が8:1のため、便宜上DDDを15.75 タソシン : TAZ/PIPCはPIPC (DDD=14) として算出するがタソシンは、配合比が4:1のため、便宜上DDDを17.5と定義 J01DD62 スルバクタム・セフォペラゾン (P) セフォペラゾン (DDD=4) として算出するが、配合比が1:1のため、便宜上DDDを8とする。 J01DH51 イミベネム・シラスタチン (P) 規格にシラスタチンを含まないため、補正は不要。イミベネム (DDD=2) として計算する。
⑦WHOCCでDDDが設定されているが、JDDDを用いている薬剤	集計状、便宜上の理由のため	J01CR01 アンピシリン・スルバクタム (P) WHO : DDD=6g →アンピシリン+酵素阻害剤のWHO ATC/DDD=6g。配合比ABPC:SBT=2 : 1のため、DDDを9と設定 J01CR05 タソバクタム・ピペラシリン (P) WHO : DDD=14g →ソシン : TAZ/PIPCは (DDD=14) として算出するが、配合比が8:1のため、便宜上DDDを15.75と設定 タソシン : TAZ/PIPCはPIPC (DDD=14) として算出するがタソシンは、配合比が4:1のため、便宜上DDDを17.5と設定 J01DD62 スルバクタム・セフォペラゾン (P) WHO : DDD=4g →配合比が1:1のため、便宜上DDDを8と設定 J05AF07 テノホビル シズプロキシルフマル酸塩 (O) WHO : DDD=0.245g →tenofovir disoproxil のDDDは0.245g、フマル酸塩として0.3gとして設定

※“JDDD”はJapan DDDとしてAMR臨床リファレンスセンターで設定しました。WHO Collaborating Centre for Drug Statistics MethodologyのDDDではありません。

※薬剤名の後ろにあるカッコ内は投与経路となります。(O) : oral、経口 (P) : Parenteral、非経口

※MU: 百万単位、UD: unit dose